

知床半島のオジロワシ

5月はオジロワシの繁殖シーズンです。大木の上に作った大きな巣の中で孵化したオジロワシのヒナは、親鳥が運んでくれる餌を食べながら日一日と大きくなっています。そして十分成長し、飛ぶ力がつくまでの3ヶ月近くもの間をこの巣の上で過ごします。営巣木はイタヤカエデやダケカンバなどの広葉樹、アカエゾマツなどの針葉樹と種類は様々です。巣に運ばれる餌は海の魚やカモメ、ミズナギドリ等の海鳥。高い木の上で海を見ながら育ったヒナは7月に巣立ちます。

絶滅危惧種の鳥

オジロワシは絶滅が危惧される鳥類として環境省のレッドリストに記載されています。北海道で繁殖するオジロワシはわずか60~70つがい程度でしかありません。そのうち知床半島(斜里・羅臼・標津の3町管内)で繁殖するものは21つがい、少数とはいえ北海道全体の3分の1を占める我が国最大の繁殖地です。今、知床は世界自然遺産に推薦されています。オジロワシやシマフクロウなど希少種が生息することがその推薦理由の一つです。

知床の繁殖状況

知床に生息するオジロワシの調査は長年続けられてきました。そして食性や繁殖状況、越冬状況などについて調べられてきました。最近まとめられた繁殖状況の調査では、知床の11箇所の営巣地について、最近16年間の繁殖成

功率が76.4%となりました(白木・中川、2005)。繁殖成功率は営巣が確認された巣の内、ヒナが巣立できた巣の割合です。オジロワシの繁殖は、巣周辺への人の立ち入りや親鳥の事故、餌不足や巣の倒壊など様々な理由で途中で失敗することがあります。1960~70年代のヨーロッパでは有機塩素化合物による環境汚染でオジロワシが大きく減少しましたが、その頃の繁殖成功率は著しく低くなっています。他の繁殖地と比較して、現在の知床の繁殖成功率は比較的良好と考えられます。



調査の継続と保護

知床半島のオジロワシ営巣地のうち、国立公園内や鳥獣保護区内など何らかの保護地域内にあるものは3分の2で残り3分の1の営巣地は保護区の外、畑近くや道路近くの森林内にあります。こうした営巣地では周辺で様々な人の活動があり、オジロワシの営巣に影響を与えないような配慮が重要になります。

今後のオジロワシの繁殖状況を継続して把握してゆくためのモニタリング調査が昨年から始まりました。斜里町と羅臼町の調査スタッフが調査を継続し、その結果を公表してゆく計画です。野生生物の保護には生息状況の調査を継続し、その変化を把握することが重要です。北海道のオジロワシは営巣環境の減少などで衰退してきましたが、90年代以降回復傾向にあると考えられます。知床で繁殖するオジロワシについてもその動向を常に把握し、生息に悪影響を与える要因が生じていないか常に注意する必要があります。「町の鳥」オジロワシとその生息環境を末永く皆で守ってゆきたいものです。(中川 元)



~事務局より~

5月号の発行が遅れましたことをお詫び申し上げます。今後とも楽しい話題を提供してまいりますので、よろしくお願いいたします。

発行 斜里町立知床博物館協力会 2005.4.30
099-4113
北海道斜里郡斜里町本町49 斜里町立知床博物館内
TEL:01522-3-1256/FAX: 3-1257
<http://www5.ocn.ne.jp/~museumsp/>